

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

表裏双解剂 解表清裏剂 2

かつこんおうれんおうごんゆ
葛根黄連黄芩湯

解肌・清熱止痢

葛根 18g・炙甘草 6g・黄芩 9g・黄連 9g
水煎し服用する。

傷寒論

<主治>

外感表証未解、熱邪入裏

発熱、下痢、肛門の灼熱感、胸腹の熱感、口渴、呼吸促迫、汗が出る、舌苔が黄、脈が数などを呈す。

<病機>

表邪が陽明に陥入し、肌腠に留まると同時に胃腸を傷害して熱痢を引き起こした状態である。表証を誤下して発生することが多い。

表証の発熱が続き、邪熱が陽明の裏で盛んになるために口渴、胸腹の熱感、舌苔が黄、脈が数などを呈する。邪熱が大腸に下迫するので悪臭のある下痢、肛門の灼熱感が生じ、外泄しきれず壅滞した熱が肺を上干すると呼吸促迫がみられ、肌表に外蒸すると汗が出る。また、頭痛、項背部のこわばりなど表証を伴うこともある。

<方意>

肌表の邪を外透するとともに裏熱を清する。

主薬は大量の葛根で、陽明肌腠の表邪を透発外散すると同時に、脾胃の清陽を昇発することにより止瀉に働く。苦寒の黄芩・黄連は、腸胃の邪熱を直清して止痢する。炙甘草は甘緩和中と諸薬の調和に働く。全体で解肌清裏して止痢することができる。

<参考>

温病学では本方（葛根黄連黄芩湯）を「腸熱下利」に用いており、表証の有無にかかわらず有効である。

本証（葛根黄連黄芩湯証）および腸熱下利・熱結傍流は、同じく悪臭のある下痢を呈する。

熱結傍流は、燥屎があって熱が津液を下迫することにより下痢が生じるので、悪臭のある稀薄な水様下痢で腹痛、腹満、圧痛を伴う。

本証（葛根黄連黄芩湯証）や腸熱下利は、津液と糞便が同時に滲下するので、悪臭のある便を混じえたうすい下痢を呈するが、腹満や圧痛はみられない。